

ならやまトーク・投句 (寒・中編)

労作のビニールハウスや春隣

藤原 勉

(手作りの育苗用の温室、皆の力でやつと完成。春よ早く来い)

この子等に残す地球を語る初春

古川祐司

(新春講演会、愛児を抱いた講師は、地球の未来を熱く訴える)

原始林山肌えぐる冬の雨

阿部和生

(春日原始林での自然観察会、昨年の台風による倒木が発生し

山肌の土砂の流出があちこちに。山の荒れ様に心が痛む)

遠近おんこちの山は白々里も雪

阿部和生

(作者の実家のある湖北は豪雪地帯。はるかに伊吹山塊や金糞岳

が白く輝き、近くの里山や田畑は白一色の雪景色に沈む)

幕尻の汚名返上春土俵

岡田安弘

(奈良出身で幕尻の徳勝龍、最終日に大関貴景勝を破って、堂々

の初優勝。春場所は前頭2枚目へと大出世した。頑張ってやー)

草の葉にダイヤヤちりばめ寒の朝

桜木晴代

(大寒に入り、極寒が戻る。野の草の葉には霜の花がきらめく)

背ひとを丸め菜花摘む女人深帽子

青木幸子

(立春は菜花の収穫期、風は冷たいが強まる日差に、顔を隠して農作業にいそしむ農婦はかなりの年配か。「深帽子」がいい)

投句歓迎 (古川まで)

群雀屋根から屋根へマスゲーム 鈴木末一

(昔の家並が残る一帯は、雀が住み着いている。冬は集団行動の季節、一斉に飛び立ちかなたの屋根へ。なつかしい冬の風物詩)

鬼は外無言でかぶる恵方巻

羽尻 嵩

(節分の夜、大声で鬼を払い、海苔巻に幸運を願う丸かぶり。くれぐれも喉元にはご用心。因みに今年の正恵方は西南西)

比良八荒心のゴミも吹き飛ばし

羽尻 嵩

(湖国近江の三月は比良八荒が荒れ終いという。この時期には天台宗の寺々では比良八講の行が執り行われる。)

お前もか賀状の隅に以後遠慮

小山喜与男

(友人からまたも賀状遠慮と。余命は一五年もある、先は長いぞ)

日向ぼこ十年をめくる画帳かな

ハ木 順一

(絵心のある作者。往時は愛用のバイクを駆って各地をスケッチして回ったものだ。画集をめくれば、思い出の風景が蘇る)

石仏に供える如く落椿

中井 弘

(歴史の下見に白毫寺へ。志貴皇子ゆかりの古刹は椿の名所。散り敷いた五色の椿と石仏の対照、中々いい雰囲気である)

石段に千年の刻椿落つ

古川祐司

(山門への石段が歴史を刻んで鎮る。椿並木から花の落ちる音)